

(2) 地質

愛媛県は、地質学的に北から領家帯、三波川変成帯、秩父帯及び四万十帯の4つの地帯に大別され、それぞれの境界は、ほぼ東西に走る中央構造線、御荷鉾構造線、仏像構造線と呼ばれる3つの構造線により区切られており、風化を受けやすく、剥離性に富む脆弱な地質であり、本県の地すべり性崩壊の要因となっています。

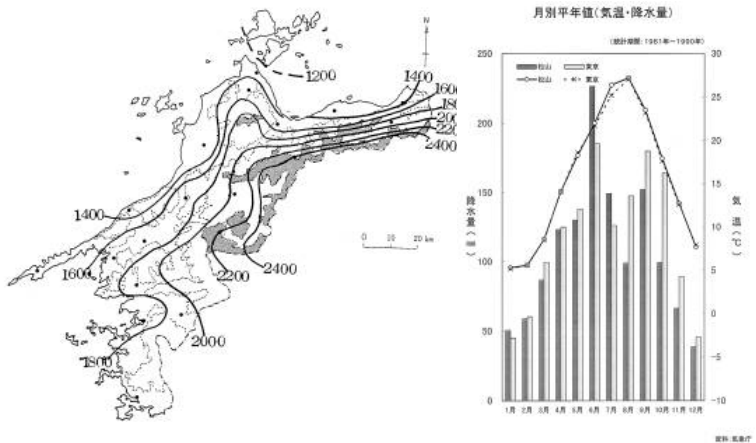


愛媛県地質略図（鹿島編，1988）



(3) 気象

愛媛県は、複雑な地形の影響を受け、気象現象も変化に富んでおり、瀬戸内海沿岸地域は、降水量が少なく（年降水量1,200～1,600mm）、比較的温暖（年平均気温15～16℃）で、県西部の宇和海沿岸は、降水量が多く（1,600～1,900mm）、気温はやや高く（15～16.5℃）、また、県内陸の山地部は、降水量がさらに多く（1,900～2,000mm）、気温が低い（12～14℃）気候となっています。



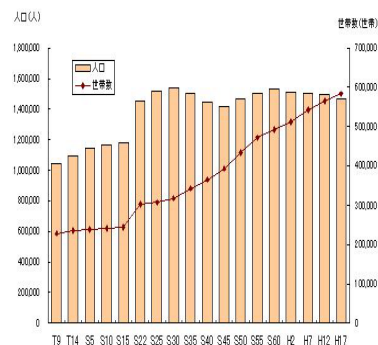
(4) 人口

愛媛県の総人口は、146万7,815人（平成17年国勢調査）で、日本の総人口の1.1%を占め、全国第27位、四国では第1位となっています。これは、平成12年に比べ、人口は1.7%減少、世帯数は2.8%増加しています。（平成19年1月1日現在の推計人口は145万9,079人）。

平成17年の人口構成をしてみると、15歳未満の年少人口が、13.6%、15歳から64歳までの生産年齢人口が、62.3%、65歳以上の老年人口が24.0%で、老年人口の割合は全国と比べ3.9ポイント高くなっています。これを5年前と比較すると、年少人口は1.1ポイン

ト低下、生産年齢人口は1.5ポイント低下、老年人口は2.6ポイントの上昇となり、世帯規模の縮小と共に高齢化が進行しています。

人口と世帯の推移



愛媛県の人ロピラミッド（平成17年）

